

住化・住武相談室だより

第15号 3月10日
発行 住友化学・住化武田農薬
お客様相談室 0570-058-669
発行責任者 古津 昇

i-農カサイト <http://www.i-nouryoku.com/index.html>

目次

農家さん訪問記	p.1
やさしい農薬の知識 (No. 8)	p.4
オリスターA (シリーズ1)	p.5
雑草よもやま話 (15)	p.6
今月の相談内容から	p.7
知って得する防除の仕方	p.8
農薬あれこれ?なぜなに?コーナー	p.9
住化アグログループ紹介「住化タケダ園芸株」	p.10
今月の推進農薬「粘着くん液剤」	p.11
病害虫発生情報	p.12
農薬登録情報	p.13
新規登録農薬	p.14
最近の「お・美味しい!」	p.14
コラム・そば談義	p.15
編集後記	p.15
アンケート当選者と抽選風景	p.16



「オオイヌノフグリ・つくしとヒバリ」

技術顧問 富樫 作

農家さん訪問記

全国各地の農家さんを訪問して、その談話をシリーズ化して掲載しています。
今回は、その第2回目で柑橘栽培の本場である愛媛県中島を訪ねました。

島のかんきつは太陽と潮風を受けておいしいよ!

柑橘農家 笹野 英樹さん

松山中島はかんきつの島

今回は、松山市沖に浮かぶ中島で柑橘栽培している笹野英樹(42歳)さんをご紹介します。

中島は松山の北西約15km沖にあり、中島諸島は中島を含む7つの有人島と23の無人島からなります。

みかんの歴史は古く、明治6年から栽培しています。対岸の松山市と比べて日照時間も長く、海からの潮風を受けて甘く美味しい柑橘が採れます。



それが、京阪神などでも人気を呼び、今では島一面に柑橘が植えられています。現在、島の園地は約1,400haあり、内訳は温州みかん400ha、宮内伊予柑800ha、その他柑橘に200haあります。因みに、島の人口は6,200人ほどで殆どどの家庭は柑橘農家です。

取材の当日は風が強く、島を結ぶ小さな高速艇は激しく揺れ、いつもの静かなイメージの瀬戸内と違い25分の乗船が長く感じられました。船着場から目と鼻の先にえひめ中央農協中島支所があり、そこでインタビューしました。

笹野さんは、がっちした体躯で精悍な感じを受けましたが、お話を伺うと実直で誠実な方とすぐ伝わってきました。そして、驚いたことに2.5haの栽培をご両親と3人でこなし、それが特に大変というふうもなく淡々と話してくださいました。



消費者ニーズは多様化「甘さが人気」



さて、柑橘の現状を伺いますと、温州みかんや伊予柑だけをつくれればよかった時代は終わり、人々の嗜好が多様化し、それに伴い柑橘も多品種少量生産になってきました。そのため、消費者に好まれる品種の選定については手探りの状態で、9月出荷の日南1号から一番遅い6月出荷のカラマンダリンまで、多くの品種を栽培しています。また、品種によっては土地を選ぶため、作業の効率を考えて条件の悪い園は廃園にし、適地適作を

進めています。

ところで、ある年代以上は糖度と酸度のバランスのよい柑橘が美味しいという感覚と思いますが、今の若い人は酸度を抑えた甘いものを好むため、糖度を11から12度と1度を上げるのに大変な苦勞をしています。

また、年間を通して作業の分散が出来るよう、高接ぎや改植などして品種の更新を図っています。因みに、4月から9月頃までは剪定や施肥・防除があり、9月下旬から翌年の6月上旬までは収穫と、切れ目のない作業が1年を通して続きます。



都会から若者が帰って継いでくれるのが夢

笹野さんの夢は、息子さん(中一)が将来農業関係の学校を出て、後を継いでくれることと、島を出た若い人達がまた島に戻って柑橘づくりをしてくれることです。そのためには、安定した生活が出来るよう島のブランド力を高めるための、栽培技術の向上や品種の選定を柑橘農家全員が努力していきたいと力を込めて言われました。また、島での生活は楽しく例え困ったことがあっても気の置けない仲間が共に助け合っていることと、当然ですが周りが海のため好きな魚釣りには事欠かないそうです。

「瀬戸の花嫁」歌詞どおりの段々畑

インタビュー後に、軽トラックが一台やっと通れるぐらいの道を縫って、笹野さんの柑橘園に案内して頂きました。園には収穫して残り少なくなった伊予柑や、レモンが黄色く色付いていました。

農協の建物と道を挟んだ向い側に共同選果場があり、伊予柑が入ったコンテナが驚くほど大量にコンベヤーの上を流れ、選果後荷造りを行って、それが直接、船に積み荷され京阪神へと送り込まれる様子は圧巻でした。帰りは、農協職員の方の勧めで揺れの少ないフェリーに乗り瀬戸の海を眺めながら高浜港に戻りました。



快晴の空、東京へ向かう飛行機が松山上空を大きく左へ旋回したとき、小島が点在する瀬戸内らしい景色が広がり、松山の西方には一番大きな中島がくっきりと見えました。初めて訪れた"柑橘の島、中島"の皆さん、どうもありがとうございました。



最後に、「中島の柑橘は温暖な気候と潮風を受けて本当に美味しいですよ」といった言葉を思い起こしました。
(原・古津)

中島の柑橘は9月下旬から翌年の6月上旬までいろんな品種を生産

温州みかんは、9月下旬から翌年の1月上旬頃まで、極早生・早生・中生・普通温州を出荷しています。

また、中島で最も栽培面積が大きい伊予柑(宮内伊予柑)は1月中旬から3月中旬まで出荷されます。

そのほかの柑橘では、12月頃から順に、はれひめ、まりひめ、天草、はるみが3月上旬頃まで、また、この時期からは、デコポン、せとか、清見、カラマンダリンと6月上旬頃までいろんな種類の柑橘が出荷され、私たちの味覚を楽しませてくれます。

本対談は JA えひめ中央 営農事業本部のご協力を得て実現しました。

[目次へ戻る](#)

やさしい農薬の知識 (No.8)

【ポジティブリスト制度って何?】

営業所員からポジティブリスト制度についての問合せを受けた。最初の質問には、おもわずうなってしまった。

「お客さんにポジティブリスト制度の説明をするのですが、日本語の言い方はありませんか?」

確かに、「ポジティブリスト」は英語そのまま、どんな制度なのか推測するのが全く困難なのは確かだ。

「聞いたことはありませんね。日本全国こう呼んでいます。日本語的に言うとしたら、「食品衛生法における残留基準を積極的かつ前向きに規制する制度」でしょうか。でもこれで何のことかはわからないですね」

日本では、作物に残っても許される農薬の限度が食品衛生法で規制され、A農薬は米には0.2 ppm、いちごには2 ppm、にんじんには0.5 ppmなどのように残留基準が設定されている。ただし、通常、その農薬が使われない作物には基準が不要なので設定されていない。例えば、残留基準のないりんごにA農薬が0.5 ppm 検出されるとどうなるのか。現行の食品衛生法では基準を超えた作物の販売は規制できるが、残留基準のないりんごの販売を法律上は規制できない。ただし、実際にはそのようなりんごが消費者に受け入れられるはずはなく、生産者や輸入業者は自主的に流通を規制しているのが現状だ。「食の安全・安心」の推進のためにそれを法的に規制できるように導入されるのが今回のポジティブリスト制度の趣旨だ。

「ポジティブリスト制度ではどうなるんですか?」

「簡単にいうと、どんな作物も一律に0.01 ppmを超えてはならないのが基本です。一律基準と呼んでいます。これは、どんなものでもこのレベル以下であれば私たちが毎日摂取しても何ら健康影響の心配がない量として決められました。この一律基準(0.01 ppm、一億分の一)という値は、非常に少ない量で、だいたいお米2トン中の米1粒の重さに相当します」

「そんなレベルでは、農薬が使用できなくなりますが・・・」

「そのあと、「ただし」が付いて、残留基準が設定されている場合にはその基準が適用されます。だから、登録のある作物には何ら影響ありませんが、残留基準のない作物に対する残留農薬の規制は大変厳しくなりました」

このように、「食の安全・安心」の一環として、残留基準のポジティブリスト制度が導入され、今年の5月29日から施行される。農薬の使用者はラベルに従って農薬を使用することは勿論のこと、周辺の作物に農薬が飛散して汚染しないようにこれまで以上に十分な注意を払う必要がでてきた。

注) その作物に適用がなくても、例えば海外の基準が残留基準として設定されている場合などがありますので、どの作物にどんな基準値が設定されているかは個別に確認してください。

(財)日本食品化学研究振興財団のホームページ等で残留基準値を確認できます。



[目次へ戻る](#)

オリスターA (シリーズ1)

農業害虫防除用天敵昆虫；タイリクヒメハナカメムシ剤

<ヒメハナカメムシとは>

ヒメハナカメムシの「ヒメ」とは小さいという意味で、いろいろな植物の花「ハナ」の中でよく見られる「カメムシ」なので、このような名前がつけられました。

日本全国に生息しているヒメハナカメムシ類の仲間は、全部で5種あり、国内の温暖な地域では、秋～初冬でもセイダカアワダチソウ等で見ることができます。カメムシと聞くと、果樹やイネに被害を及ぼし、独特の臭いのする大型の「悪い」カメムシを想像される方もいると思いますが、この種は、農作物の害虫であるアザミウマ類、アブラムシ類等の昆虫やハダニ類を餌として食べ(殺し)てくれる「良い」カメムシで、「天敵昆虫」と呼ばれています。ヒメハナカメムシ類は、全体に黒っぽく、体長約2mmで、体が扁平で植物の花の中や新芽、葉などが密集した狭いところにも入って行くことができます。ですから、農薬を散布しても薬液が届かないところに潜んでいる害虫を殺すことができます。現在、日本では、国内に生息しているタイリクヒメハナカメムシが生物農薬として登録され、施設栽培のピーマン、ナス及びキュウリなどの果菜類の最も重要な害虫の一つであるアザミウマ類の防除用天敵昆虫として、オリスターAという商品名で販売されています。



アザミウマ
成虫

オリスター
A (幼虫)

<オリスターAとは>

オリスターAとは、住友化学が1993年から日本で採集したタイリクヒメハナカメムシを商品化を目指して、2001年に農薬として登録された「生物農薬」です。

農薬登録を取得するためには、害虫に対する密度抑制効果が高く、農薬としての品質が安定していることが重要です。まず、害虫に対する防除効果を国の農業研究機関で確認したところ、その効果が大変優秀であることが分かりました。

ところが、ヒメハナカメムシ類を大量に生産しようとすると容器の中で共食い(仲間を食べる)が激しく起こり、生産性が低下することも分かりました。そこで、住友化学では、これを回避するための研究を重ね、安定的に生産できる方法を確立しました。現在は、兵庫県にある住化テクノサービス株式会社(住友化学の100%子会社)でオリスターAを生産しています。当方にご注文が届いてから、遅くとも2日以内(土日発送、離島配送を除く)にお届けできます。

(浮城)

[目次へ戻る](#)

雑草よもやま話(15)

除草剤を上手に使えば環境負荷も低減

「環境保全型農業」、「低投入持続型農業」等が言われて久しく、農薬の使用、特に除草剤を使用した雑草防除は「悪」的な感覚も一部で見受けられます。

これら農業の目的は、食糧生産と環境を調和させた「持続可能な農業・農村の開発」を構築することにより、人間の生存基盤の一つである多様な生物の共同作用によって維持されている生態系の保全にあると言われます。一方、農薬の登録に際しては、その効力や作物に対する安全性のみならず、人畜や魚介類等に対する安全性、環境に対する影響の有無などについて厳密な審査がなされ、基準に適合した薬剤だけが農薬として登録され、販売されています。

除草剤を使わない水田雑草の防除方法としてはアイガモ、コイ、スクミリンゴガイ、紙マルチ、米ぬか、活性炭、除草機など各種の生物や資材・機械の利用、深水を維持する耕種管理があり、一部の農家で実行されていますが、除草剤と同等の効果、経済性、利便性は期待できないのが現実です。これ以外にも適当な大きさの雛や稚魚の確保、外敵からの保護、給餌、稲食害の回避、地温低下による減収、有機物醗酵時の異臭など各種の問題点を抱えています。

昨今販売されている水稲用除草剤の性能は非常に高いと言えるでしょう。米価が低迷する状況で生産資材の低廉化が求められておりますが、広域的に行う雑草防除方法として除草剤よりも安定した効果を示し、安価で簡便な手段はありません。この除草剤も適切に使われなければ期待する効果が得られないだけでなく、防除困難な雑草の蔓延を来したり、水田以外の場所に生育する生物にも影響し、身近な生物を失うことにもなりかねません。



1697年に宮崎安貞は、その著書「農業全書」の中で、「上の農人は草のいまだ見えざるうちに中打（なかう）ちし芸（くさぎ）り、中の農人は見えて後芸る也、見えて後も芸らざるを下の農人とす。これ土地の咎人也」と、雑草の生育初期の除草の必要性を精神論的に述べていますが、現代では科学的な視点で除草を考えるべきでしょう。除草剤の特性を十分に理解し、上手に使いこなすことで期待通りの結果を得ると共に、環境への影響を最小限にしたいものです。（岩崎）

*写真は、青木繁伸氏の「[植物園へようこそ!](#)」から使用させていただきました。

[目次へ戻る](#)

今月の相談内容から**種苗に農薬散布して農家さんに販売する場合？****質問**

果菜類の苗を販売をしています。そこで、育苗期間中に発生する病害虫の防除方法について教えてください。また、苗の購入して頂く農家さんにも説明したいのでお願いします。

回答

果菜類で育苗期間中に発生する重要な病害は苗立枯病（リゾクトニア菌）です。

この苗立枯病に対して「リゾレックス水和剤」は、トマト・きゅうり・なす・ピーマンで、は種時に土壌灌注します。「リゾレックス粉剤」は、トマト・きゅうり・なす・ピーマンに、は種前に土壌混和します。「バリダシン液剤5」は、きゅうりに、は種直後土壌灌注します。「ダコニール1000」が、きゅうり・トマトで、は種時に土壌灌注の登録があります。

害虫ではアブラムシ類やコナジラミ類はウイルス病などを感染するために育苗期間中の防除が大切です。「ダントツ粒剤」は、きゅうり・レタスのアブラムシ類に育苗期後半に株元処理し、トマト・ミニトマトのコナジラミ類にはポットに鉢上げをした時に株元処理します。同様に「ベストガード粒剤」もアブラムシ類に対し育苗期後半に株元処理、または、は種時あるいは鉢上げ時の育苗培土混和などの使用方法がありますが、作物により使用方法が異なりますので、ラベル等で十分確認の上ご使用ください。トマト・ミニトマトではアブラムシ類・コナジラミ類に対し、は種時又は鉢上げ時に育苗培土に混和処理します。育苗期以外に定植時や生育期の登録も有りますのでお勧めください。

（富樫）

[目次へ戻る](#)



知って得する防除の仕方**春先のアブラムシ防除は発生初期が大切**

今年の冬は寒く、平成18年豪雪の影響もあり各地で梅の開花が2週間以上遅れています。花が咲かないので入場料を貰えない梅園もあるとか。

さて、梅の花が終り、4月になると幼果や新芽が膨らんできます。その時に展開する新葉が巻縮・縮葉します。ひどくなると新梢の枯死やその後の葉や果実がすす病で黒く汚れてしまいます。これはアブラムシ類の被害ですが、こうなってから防除は手遅れです。巻葉の中でアブラムシが吸汁加害したり、虫が白粉で保護され薬剤が付着しにくく防除効果が上がりません。

何より縮葉した葉は元に戻りません。梅に加害するアブラムシは20種類ほどありますが、中でもモモアカアブラムシは梅以外にも多くの作物に加害する重要種です。特長は軽く巻葉になることです。モモコフキアブラムシの被害は葉とか芽が白粉で汚れ、下葉はすす病で黒くなります。ムギワラギクオマルアブラムシは

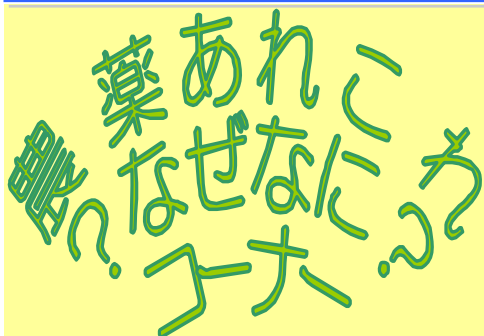
若葉や新梢に寄生し、強く葉を巻縮させ新梢枯死も引き起こします。ウメコブアブラムシも強い縮葉を引き起こし被害がひどいと幼果は落果します。

薬剤防除には、有機りん剤のスミチオン乳剤や合成ピレスロイドのアグロスリン水和剤、アディオン水和剤等がありますが、浸透移行性の強い薬剤としてダントツ水溶剤での防除をお勧めします。いずれの剤も、開花期間中は訪花昆虫への影響を考慮し、3月下旬の落弁期以降で、縮葉が発生し虫が白粉で覆われる前に新梢の先端にもよくかかるように散布してください。夏場まで増殖する種類も有りますので、その時の防除がも必要ですが、その場合はアメリカシロヒトリ等の葉を食べる害虫も同時に防除のできるスミチオン乳剤がお勧めです。

(富樫)

[目次へ戻る](#)





同じアディオンという 薬剤なのに・・・?

ご質問

アディオンという農薬があります。これには、同じアディオンでもフロアブル、乳剤、水和剤といろいろな形のものがあるみたいですね。

3つをよく比較すると、使える作物がそれぞれ違うみたいです。例えば、桃にはアディオン乳剤が使用できるのに、ぶどうには、フロアブルや水和剤しか使えません。同じアディオンなのにどうしてなのでしょう？

お答え

農薬の登録を取得するためには、有効成分が同じものでも、乳剤、フロアブル、水和剤など、その製剤ごとに薬効・薬害試験、作物残留試験などの各種試験を行う必要があります。このため、それぞれの製剤の特長も考慮し、それぞれの製剤で登録が必要な作物を順位付けした上で、登録を取っていくこととなります。

アディオンの場合、計量や薬液調製の簡便さなどの点から乳剤を主として各種の登録を取得しています。このため、アディオン乳剤は現在55種以上の作物で登録を有しており、ポジティブリスト制度が5月から始まる中で、非常に使用しやすい薬剤と言えます。一方、果樹類では薬害等の関係から、乳剤よりも水和剤が好まれる傾向にあります。アディオン水和剤も果樹とてんさいにしか登録がなく、果樹用に開発した製剤です。

水和剤の改良タイプフロアブルは、果樹と、汚れが問題となる花き類で登録を取得しています。このように、それぞれの目的で試験を実施して登録を取得していますので、同じアディオン剤でも登録内容が異なってしまいます。



(佐伯、稲葉)

[目次へ戻る](#)

住化アグログループ紹介

住化タケダ園芸株式会社

肥料 **花工場シリーズに新商品登場!**
最適なバランスの配合成分が植物の生命力を引き出す

水でうすめる速効液体肥料

肥料マスターシリーズ **花工場 EX** **NEW**

チッソ リン酸 カリ
8 : 8 : 5

カルシウム・マグネシウム・
微量元素・ビタミン入り

特許出願中



550ml 入便利な
計量カップ付き

花や野菜をもっときれいにおいしく!

健全な植物体を作る為に必要な肥料成分を高レベルでバランス良く配合することで、植物が本来持つ育つ力、花が咲く力、実をつける力を十分引き出すことを目指し開発した高機能タイプの液体肥料です。

1. 生命力を引き出す三大要素

植物の生育に欠かせない三大要素(N・P・K)を高いレベルでバランス良く配合。チッ素多めの新処方!

2. 3種類のチッ素で安定した効きめ

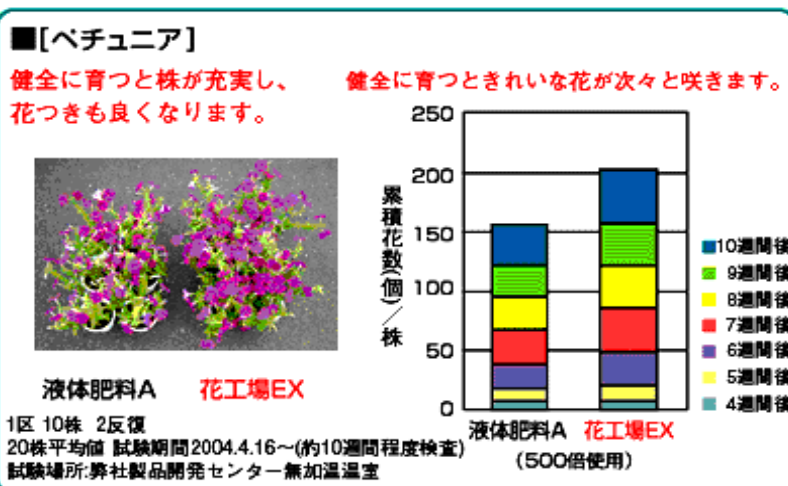
形態の異なる3種類のチッ素が効率よく吸収されます。

3. 健全な生育のためのカルシウム・微量元素

吸収しやすい水溶性カルシウムと生育に必須の各種ミネラルを強化。家庭園芸で不足しがちな肥料成分を補います。

4. ビタミン入り

日光不足などの不良環境下で植物の生育を助けるビタミンをプラス!



[目次へ戻る](#)

今月の推進農薬

でんぷんが主成分の農薬

ハダニ・アブラムシ防除に粘着くん液剤

「粘着くん液剤」は名前もユニークですが、主成分が食品でも使われている食品の加工デンプンの一種です。

ハダニ類やアブラムシ類やコナジラミ類のように小さな虫に散布すると、虫の呼吸器官の気孔をふさいだり、行動を束縛することにより効果を発揮します。効果の発現は早く薬液が乾く前に現れます。成分も作用性も大変ユニークな薬剤です。

1. その特長は、

安全性が極めて高い防除剤で、いちごやトマトなどの野菜類や花き類などに収穫前日まで使用する事ができます。

極めて速効性で、散布後10～20分で効果を発揮し、被害を速効的に抑えます。

防除作用が物理的であるため、害虫類に抵抗性を発達させることが有りませんし、既に薬剤抵抗性のついたハダニ類も駆除できます。

小さな虫には有効ですが、天敵昆虫や有用昆虫等の大きな虫には作用が及びませんので、ミツバチやマルハナバチ等の受粉媒介昆虫を用いた栽培体系にも使用できます。デンプンは、環境の中で最終的に水と炭酸ガスに分解されるため環境にやさしい農薬です。

2. 上手な使い方は、次の通りです。

使用に当たっては沈殿していることも有りますので、容器をよく振ってから使用して下さい。

対象の虫に良く付着するように霧の細かいノズルで撒きムラの無いように散布をしてください。

卵には効果が無く、残効性も無いので、虫の増殖盛期や外部からの飛込みが多い時は5～7日間隔の連続2回散布や他剤と輪番で使用してください。

軟弱徒長苗や夏期高温時には日中の散布は控えてください。(薬害)かんきつ・ミズナスには果実の有る時は使用しないで下さい。(薬害)展着剤の加用の必要はありません。

本剤はデンプンを化学処理しているため、有機農産物での採用が見送られております。なお、化学処理していないでんぷん製剤の「粘着くん水和剤」を4月に販売する予定です。この剤は有機農産物に使用することが認められています。(富樫)



[目次へ戻る](#)

病害虫発生情報

2月に各県からの病害虫注意報・特殊報から、主要なものをお知らせします。

タバココナジラミ バイオタイプQ

トマト、ミニトマト他：千葉・鳥取・山口県、

ピーマン、メロン：島根県 シルバーリーフコナジラミ（バイオタイプB）との形態による区別は、現時点ではできません。従来のコナジラミ防除薬剤に対しては、感受性が低い系統ですが、ベストガード剤の効果は、このQタイプでも優れているという試験報告があります。コナジラミ類の防除は、薬剤による防除だけではなく、施設の開口部に防虫ネット（0.4mm目以下）を張るなどの対策も同時に行うことが必要です。



2月末現在13県で特殊報が発表されており、九州から関東まで広がってきています。

トマト、ミニトマト

トマト黄化葉巻病：山梨県 トマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）により発病します。シルバーリーフコナジラミにより媒介されます。

葉かび病：宮崎県 ベンレート水和剤、ダコニール1000、ゲッター水和剤、サプロール乳剤、サルパトールMEなどの薬剤で防除が可能です。

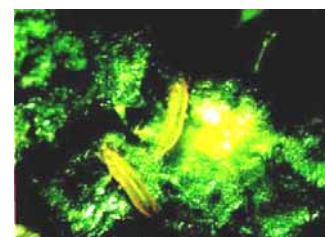
いちご

角斑細菌病：愛媛県 登録薬剤は少ないですが、バリダシン液剤で登録があります。

しろうり

MYSV (Melon yellow spot virus)：福岡県 メロン黄化えそウイルス（MYSV）による、ウイルス病です。しろうりでの自然感染が認められたのは、国内で初めてです。本ウイルスは、ミナミキイロアザミウマにより媒介されます。

しろうりで登録のある薬剤としては、スミチオン乳剤がアザミウマ類であります。



なし

黒星病：茨城県 罹病葉は第一伝染源となるので、園内の落葉を集め適切に処理することが大切です。薬剤防除は防除暦に沿って、催芽～萌芽期、りん片脱落直前、落花期の防除が重要です。この時期はアンピルフロアブル、サルパトールMEなどのEBI剤での防除が最適です。

サクセスキクイムシ：栃木県 幹及び主枝を加害するキクイムシ類の主要種ですが、果実への穿孔被害が、栃木県では初めて確認されました。防除は樹幹部への侵入を防ぐための薬剤防除を行ってください。

フタモンマダラメイガ：愛媛県

かき、くり、りんごの害虫ですが、なしでの報告は過去三重県、愛知県で報告されている程度です。今回愛媛県でも被害が初めて確認されました。シンクイムシ類の防除を実施していれば、問題になることはありません。但し、交信攪乱用フェロモン剤利用による減農薬栽培体系で注意が必要です。



[目次へ戻る](#)

農薬登録情報

2月の適用拡大内容です。



薬剤名	変更点	作物	病虫害雑草名	使用量	内容
ガットサイドS	作物追加	小粒種 ぶどう	コウモリガ	1(原液)～ 1.5倍	<ul style="list-style-type: none"> ・幼虫喰入期直前～喰入初期 (但し収穫21日前まで) ・主幹部に塗布(原液～1.5倍液) 又は散布(1.5倍液)/ ・本剤2回 MEP 4回以内 (収穫終了後から萌芽まで2回 以内、萌芽後は2回以内)
	総使用回数	大粒種ぶ どう			「2回以内」「4回以内(収穫終了 後から萌芽までは2回以内、萌芽 後は2回以内)」
武田 トレファノサイ ド乳剤	作物追 加	実えん どう・さやえ んどう(露 地栽培)	畑地一 年生雑 草(ツク サ、カツ グサ、キ アブナ科 を除く)	300ml/10a	は種直後、土壌表面散布
		しろ うり (露地栽 培)		150～ 200ml/10a	定植前(植穴掘前)、土壌表面 散布
		むか ご		200～ 300ml/10a	植付直後、土壌表面散布 生育初期(但し植付30日後ま で)、畦間土壌表面散布
		葉ご ぼう (露地栽 培)			は種直後、土壌表面散布
ジベラ錠	品種区 分の変 更	ぶ どう			主要な品種を 2倍体米国系品種 2倍体欧州系品種 3倍体品種 巨峰系4倍体品種 に分類

新規登録農薬

平成18年2月22日登録

農林水産省登録 第21650号

薬剤名	作物名	病虫害名	使用量	使用時期	使用回数
住友化学スチオンダニール 粉剤 DL	大豆	カメムシ類 マメシクイガ 紫斑病	3～4 kg/10a	収穫21 日前まで	本剤2回以内 MEP 4回以内 TPN 2回以内

上市時期は未定です。

(佐伯・稲葉)

最近の「お・・美味しい!」

弊社相談室紅一点!の佐伯がお送りします
最近の「お・・美味しい!」
女性の目・主婦の目・はたまた酒呑み??の目(笑)で、
毎月「これぞ!」というものを紹介します。
どうぞお楽しみに♪♪

「今年もやってきました。文旦の季節」

文旦(ぶんたん)というカンキツをご存知でしょうか?

見た目は大きいグレープフルーツみたいな感じで、甘さと酸っぱさが上品で瑞々しく独特な味わいです。いつもこの季節になると、高知県の農園さんから箱単位で購入し、毎日食後にいただいています。

この文旦。外皮がわりと厚くて、内皮もすべてを取り除かないと少々苦いのですが、果汁で手がベタベタにならないし、内皮から身がキレイに剥けるのでちょっとした「達成感」が得られます。

こういう作業は「めんどくさい」と思われる方もいるかもしれませんが、でも、「良い香り」に包まれながら、何も考えずに一心不乱に皮を剥いて身を取り出す……。忙しい毎日で、こんな時間があってもいいんじゃないかなと思います。剥いたら剥いたで「よっしゃ!」という達成感。その達成感の後には、この時期にしか味わえない味覚。毎年の楽しみです。



キレイに剥けたら・・・いただきます!

(佐伯)

[目次へ戻る](#)

コラム・そば談義

大学の恩師、杉本毅教授の退職記念祝賀会が大阪・上本町のホテルであった。

当時の私は害虫研究室所属ではないが、後輩から連絡を受け参加を申し出た。そして、図らずも先生から指名があり祝辞を述べることになった。内容は、先生とのエピソードを含めて、今まで何かと気遣って戴いたお礼と不思議なご縁についてスピーチをした。

当時、先生はキツネノボタンに寄生するハモグリバエの天敵であるハモグリミドリヒメコバチの研究に没頭されていた。そのころ、ご自宅から大学までの通勤時間が勿体無いということで、私の下宿に泊まれたことがあった。しかし、下宿が余りにも汚かったことと部屋の寒さが応えたのか一晩泊まれただけで退散されたことを思い出す。

私が卒業した昭和48年頃（第一次石油ショック）は、化学農薬全盛の時代で天敵など殆んど関心がなく、学術のための研究としか思っていなかった。また、世間もそんな程度だったように思う。そして、あれから30年が過ぎた今、食の安全・安心が大きく叫ばれると同時に有機農産物や特別栽培農産物などが台頭してきてIPM（総合病害虫管理）も定着してきた。

弊社でもIPM関連の製品が多くなり、BT剤だけでも4種類、デンプンを有効成分とする剤やスリップスの天敵であるタイリクヒメハナカメムシを利用した商品（オリスターA）も販売されている。また、俗にいう環境にやさしいという農薬を色々と開発中である。そして、先生が当時研究されていたミドリヒメコバチも「ミドリヒメ」という商品で4月頃から発売されようとしている。また、先生の大きな功績は、久米島に棲息しているサツマイモの大害虫であるアリモドキゾウムシを国や県との協力のもと不妊化虫を利用してほぼ撲滅させることに成功したことだ。この害虫にサツマイモが食害されると、イモ自体が免疫反応してエグイ味になり全く食用にはならないそうだ。その大害虫を防除することが出来、今ではサツマイモは元気に育ち、私の大好きな「いも焼酎」が心ゆくまで飲めることを有り難いと思う。

祝賀会を途中で抜け出し、最終列車に近い東京行きの新幹線に飛び乗り、少し酔った頭で思いを馳せながら、つくづくよい先生方や当時の仲間・後輩達に恵まれたことの幸せを実感する。

いつか、近いうちに杉本先生を囲んで当時の仲間や後輩にそばを打つことが出来ないものかと、今からワクワクした気持ちで機会を覗いている。（古津）

【編集後記】 このほか厳しかった今冬も、そろそろ終わりに近づいてきました。

これから、一気に木々の芽が吹き出すことでしょう。それと共に、相談室へのお客様からの電話も多くなり日々奮闘しています。

さて、先般実施したアンケート結果から、紙面を2段組から1段組にしてパソコン画面からも見やすくしてみました。また、紙面一枚に一つの記事を書けるようにしました。但し、それにより紙面が増えた感もありますがご了承ください。

今後も、紙面を見やすくしたり、お役立ち情報を多く掲載するよう努力いたしますのでご期待ください。



アンケート当選者と抽選風景

先般、本誌のアンケート調査にお答え頂いた方について、厳正なる抽選をしました。(写真参照)

当選された方々を発表致します。

「りんご」当選の皆様

福島県 M 商店さん、茨城県 K.S.さん、茨城県 M.K.さん、千葉県 T.M.さん、千葉県 Y.K.さん、千葉県 T.T.さん、千葉県 M.I.さん、東京都 K.I.さん、東京都 J.N.さん、神奈川県 E.M.さん、静岡県 Y.T.さん、愛知県 K.O.さん、愛知県 T.K.さん、愛知県 M 肥料店さん、滋賀県 S 肥料店さん、大阪府 T.N.さん、兵庫県 H.U.さん、岡山県 S.O.さん、岡山県 I 商店さん、鳥取県 N 商店さん、島根県 H.Y.さん、山口県 K.T.さん、山口県 T.J.さん、香川県 M.H.さん、香川県 I.O.さん、愛媛県 Y.K.さん、大分県 Y.M.さん、熊本県 S.T.さん、鹿児島県 Y 商店さん、鹿児島県 O.H.さん。(30名)

**「みかん」当選の皆様**

北海道 A.N.さん、北海道 T.S.さん、岩手県 Y 商店さん、秋田県 S.Y.さん、秋田県 M.M.さん、山形県 N.I.さん、山形県 K.O.さん、宮城県 T.S.さん、宮城県 M.K.さん、福島県 A.S.さん、茨城県 Y.M.さん、埼玉県 J.S.さん、埼玉県 K.S.さん、埼玉県 Y.H.さん、千葉県 S.E.さん、東京都 Z.N.さん、新潟県 Y.S.さん、新潟県 S.H.さん、富山県 K.M.さん、石川県 H 資材さん、京都府 Y.N.さん、三重県 N 商事さん、大阪府 M.S.さん、兵庫県 M.O.さん、岡山県 I 商事さん、山口県 T.N.さん、山口県 S.S.さん、徳島県 M 商店さん、沖縄県 S.N.さん。(29名)

1名不足分はダブリ当選の方がいたため。

[目次へ戻る](#)